



踊りの祭典 2021

～我がふるさとに誇りと感謝を胸に～



奥州 秋まつり

奥州のまちに祭りの熱気が舞い戻った——。新型コロナウイルス感染症の影響により、祭りの中止・延期を余儀なくされてきた中、10月16日に「踊りの祭典 2021」、10月23日に「第48回江刺甚句まつり」が開かれました。厄年・年祝連などが勇壮な演舞を披露。会場は熱気と歓喜に包まれました。

①色鮮やかな衣装と扇子で華麗な踊りを披露した水沢42歳厄年連「申舞伝」②水沢25歳厄年連「紐煌伝」はダイナミックな踊りで観客を魅了③④2年度水沢42歳厄年連「煌羊会」と25歳厄年連「琉子幻」も出演し祭りを盛り上げた

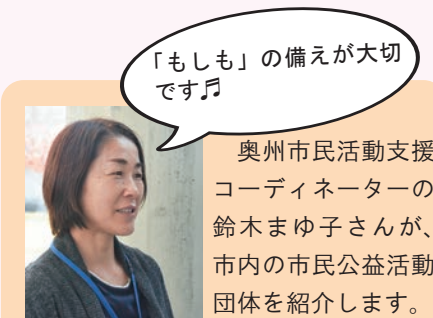


第48回

江刺甚句まつり



⑤創作演舞「風つむぎ」を披露した江刺42歳年祝連「颯悠会」⑥江刺25歳年祝連「紫彩仁」は伝統のある江刺甚句踊りを披露⑦後輩の本番に花を添えた江刺26歳年代連「結碧蓮」⑧躍動感のある踊りを披露した江刺43歳年代連「緋勇陣」



■問い合わせ

本庁地域づくり推進課 市民活動係
(江刺総合支所・☎ 34-1618)

思いをカタチに 地域づくりの輪



奥州市防災士会「絆」

奥州市防災士会「絆」は、防災士の資格を取得した会員が中心となり、災害に対する心構えや備え、災害時の行動などの普及・啓発活動を行っています。
同会発足のきっかけは、毎年のように全国各地で大規模な災害が発生している現状と東日本大震災の経験を踏まえ「官民連携した防災体制づくりが必要」と考えた市が、市内在住の防災士資格取得者に組織化を呼び掛けたことでした。防災士たちは、設立準備委員会を立ち上げ、何度も協議を重ね、平成30年に奥州市防災士会「絆」が設立されました。

防災意識の大切さ

同会は、より多くの市民に防災に対する理解と災害の特性を知ってもらおうと学習会や防災フェアなどを開催しています。学習会は、依頼に応じて振興会・町内会、各学校や社会福祉施設などで幅広く行っています。
昨年度は、県立前沢明峰支援学校の生徒や教職員を対象とした学習会を開催。「地震」



前沢明峰支援学校での学習会の様子

「水害」「火災」をテーマに、災害への備えや発災時の対応、避難の方法などを講演しました。また、けがをした場合の応急手当や傷病者の搬送方法の体験も実施。生徒たちは、学習会を通して「災害から自分の命を守る」方法、体験を通して「瞬時に適切な対応を取る」ことの大切さを学びました。
10月には、水沢メイプルを会場に2年ぶりとなる防災フェアを開催しました。同フェアでは、東日本大震災などの写真や大規模災害の救助・救出時の写真、「自分の命を守る」ための知識を身に付ける方策などのポイント展示を行いました。



災害用伝言ダイヤルを体験する参加者

展示では「川の近くや土砂災害警戒区域の近くを通る道路を避け、多少遠回りになっても安全な経路を選んで避難する」といった災害発生時における注意事項や被害に遭わない心得などのポイントを解説しました。
その他、避難所運営モデル・感染症対策コーナーでは、感染症対策に配慮した避難所の一例として、段ボールベッドやパーティションなどを活用した運営の仕組みを紹介。イベントを通じて、平時から災害に対する防災・減災を意識し、何を備えるべきかを考えるきっかけを提供しました。



奥州市防災士会「絆」の皆さん

助けられる人から助ける人へ
災害は、いつ、どこで、どんな時に起こるか分かりません。東日本大震災から10年が経過した現在も日本各地で災害は頻発し、人々の大切な命を奪っています。
同会は、「助けられる人から助ける人へ」をキャッチフレーズに、市民の防災意識高揚と、地域防災力向上を図るため今後も活動を継続していきます。会長の千葉稔さんは「より多くの市民に同会の防災啓発活動に関心を持っていただき、災害に対する防災・減災意識を高めることで、災害に強いまちを目指していきたい」と意欲的に語りました。